# イヌワシの保全に向けた新たな取り組みがはじまりました！

自然・環境マネジメント研究部　生態研究グループ　　布野隆之

（写真1）大空を舞うイヌワシ

　イヌワシは、翼開長2mに達する大型のワシです（写真1）。国内では絶滅危惧種に指定されています。県内では但馬地方に２ペアが生息します。

　2020年、県内の１ペアから１羽のヒナが巣立ちました。実に16年ぶりの快挙でした。しかし、巣立ったヒナは１ヶ月で姿を見せなくなり、死亡しました（写真2）。

　16年ぶりに誕生したヒナの死亡は、イヌワシ生息地の「異変」を教えてくれました。その異変は「エサ不足」です。県内のイヌワシは通常、６月上旬に巣立ちます。しかし、16年ぶりに誕生したヒナは、７月上旬に巣立ちました。巣立つ時期が１ヶ月も遅かったのです。既往の研究により、巣立ちの遅延はエサ不足に起因することが知られています。つまり、16年ぶりに誕生したヒナは、エサを十分に摂食できず、巣立ちが大幅に遅れたと考えられるのです。

（写真2）巣立ち後に死亡した
イヌワシのヒナ

　エサが不足する限り、イヌワシの繁殖は成功しません。そこで、2022年4月から「但馬イヌワシ・エイド・プロジェクト」と銘打って、イヌワシのエサ不足を解消する取り組みがスタートしました。今から10年後、イヌワシは兵庫の大空を舞っているのでしょうか？県内のイヌワシは、今、大きな岐路に立たされています。